



「ずっと使ったランドセル」 内田 陸  
江別市立江別太小学校6年



「この体育館での思い出」 金子翔成  
江別市立江別太小学校6年

はなくなるけれど、この作品で思い出したい」「ほくが描きたかったのは、毎日のこの教室と友達です」など心に迫る想いを共有することができ、充実した取組となった。子どもたちは、

■授業実践から

「表し方を工夫して?6年間の思い出、伝えよう自分の想い」

本題材は、小学校6年生の卒業記念作品として、6年間の思い出に残る一場面や思い出の持ち物等を主題とするとともに、お世話になった学校や仲間への想いを作品に表すことをねらいとしている。

本校は、来年の夏に新校舎が完成し、現校舎は取り壊される。現校舎とともに過ごすことのできる最後の6年生として様々な行事において、この学舎を愛する想いを高められるよう過ごしてきた。本題材では、そんな学舎で、自分が一番留めておきたいと感じる場面を探し、感謝や愛しさの心を込めて作品にすることは、何より情感あふれるものになると考え取り組んだ。

まず、最初に子どもたちは、それぞれで学校の中を探検する。1年生の時初めて学校探検をしたことを思い出す児童もいる。教室のあらゆる箇所、体育館、中庭、正面玄関、特別活動室などを巡った後に、デジタルカメラで捉えたい場面を何枚か撮影し、どの構図がよいか画面を通して選択し、決定する。下描きには時

文化を育む こんな**作品**が**生**まりました  
感謝や優しさの心を込めて  
“優しい画家の眼に”

間をかけず、彩色時に陰影等を工夫しながら制作できるようににした。

評価の視点を次のように設定した。①自分の6年間を思い起こし、何か感じたり人に伝えたりしたい情景を表すことに取り組んでいる。②表したいことの主題に合った視点を考えたり、感じたことが表れるように形や色を考えている。③表したいことが伝わるように、表現に適した技法を選び、表し方を工夫している。④感じ方や表し方について友人と話し合い、作品の表現を多様な見方で捉えている。

「先生、今までで一番満足するまで時間かけてできた!」という声、鑑賞の授業で交流した際には、「この校舎

自分の想いを伝えることや留めておきたいことを造形によって表すことの意義深さを肌で感じていたようだった。

■題材へのコメント  
(指導者・村井宏子教諭)

本題材は、学校生活の思い出の一場面等を、水彩絵の具を用いて表現する造形活動である。その中で何よりも特徴的なことは、子どもたちが、好奇心からだけではなく、愛情を持って描く対象や表現主題を決めていることにある。描く対象を探している子どもたちの目は、優しい画家の眼となり、美しいものの姿を感じ、それらを真っすぐ捉えようと働く。画面には、自らの想いと共に、そこにある現実を超えて、子どもたちにとってのリアリティが統合されていく。

一般的に「感動」とは、感情が動いている状態を指す。動いているが、やがて静まり、消えてしまう不安定な「感動」を、これまで習得した絵画の技法を駆使して、白い画用紙に安定した動かぬ姿とすると、ところが、本題材の最大の教育的意義といえる。

本実践に敬意を表するとともに、さらなる発展を期待したい。(北海道教育大学講師 花輪大輔)